

報告タイトル

中国の対日経済的威圧に対する日米経済安全保障協力-重要鉱物に関するサプライチェーン構築の観点から-

“Japan-US Economic Security Cooperation against Chinese Economic Coercion towards Japan- From the Perspective of Building Supply Chains for Critical Minerals -”

氏名(所属)

中川大雅(青山学院大学大学院)  
Hiromasa Nakagawa(Aoyama Gakuin University)

要旨(800字程度)

本報告は、日本に対する中国の経済的威圧に対処するための日米経済安全保障協力について、重要鉱物をめぐるサプライチェーンに着目して分析する。

報告では、2010年のレアアース輸出規制問題への対応と、2010年代末から2020年代初めごろから進展していった経済安全保障としての重要鉱物に関するサプライチェーン構築を取り扱う。

報告で解明を目指す問いは、「なぜ日本政府は、レアアース事件の際には経済安全保障という概念を使用しなかったにもかかわらず、2010年代末ごろから経済安全保障政策を本格的に推進させるようになったのか」と、「なぜ米国では通商協力や市場開放に関する消極的な風潮が高まっているにもかかわらず日米の重要鉱物に関するサプライチェーン構築をめぐる協力が進んでいるのかが」という2点である。

本報告は、2010年のレアアース事件と2010年末以降の経済安全保障政策の進展を通じて、日本の経済安全保障政策の進展の背景にあるものとして、米中対立の高まりと経済安全保障意識を高めた米国による日本への外圧、2020年の新型コロナウイルスによるパンデミックが生み出したサプライチェーン寸断への危機意識、そして2010年のレアアース事件の時に採用された経済政策に対する限界の認識というものがあることを示す。

また、米国のサプライチェーン構築に関する日本との協力の背景にあるものとして、米国自身のサプライチェーンに関する問題意識と、同盟国である日本に対する配慮があると結論付ける。

本報告を通じて、日本政府の経済政策と経済安全保障政策を比較することによって経済安全保障政策の特徴を示すこと、そして、サプライチェーンを巡る日米の経済安全保障協力という問題を取り上げることで、日米という対称ではない同盟と、それに伴う外圧と譲歩について経済安全保障の視点から議論することが、本報告の目的である。